

ii. 中之島での取り組み

中之島実習生 物應忠

はじめに

私にとって本研修の目的は、へき地校における「学校と地域」の相関関係を見ることにあった。これから教壇に立とうとする者として、「学校と地域」を実際の現場において肌で感じる機会は貴重であり、自ら、へき地教育の最前線に飛び込んで、その実情や実際上の問題にある程度の責任を負いながらふれさせて頂くことにより、教育者としての資質を伸ばすことができるのではないかと考えたのである。研究会に参加した当初は、自分自身がどこまでできるのか不安もあったが、研究会のメンバーと意見を重ねながら、「何としても実習に臨みたい」という気持ちを固めていった。

私は同じ鹿児島県の薩南諸島のうち、トカラ列島より南の奄美群島には度々訪れた経験がある。その中でも、大島郡徳之島町には親戚が暮している縁で長期にわたって滞在した。徳之島での生活を通して、私は島の暮らしの厳しさを体験したが、中でも台風の通過地点に立地していることに代表される気候条件の厳しさと、それに伴って交通アクセスが不安定になりがちな実情を、身を以て感じた。時に、台風の強風域から一週間も抜けられないこともあった。またこの島では、子どもたちにとって学校以外に出かける場所が限られているため、島一番の繁華街である亀津では、制服の異なる学生たちが親しく会話を楽しんでいる姿をよく目にした。つまり他校の同世代との交流が恒常的になされているようであった。現に私の親戚も学校卒業後、小・中学校又は高校時代の友人と会う機会は多いと言っていた。離島社会にあっては地域を母体としたヨコの関係が、本土に比べてはるかに濃密であることを私は感じた。このことは、私が体験的に抱いた「離島観」の一つとして今も強い印象を残している。

同じ「離島」でも、へき地性の高いトカラ列島では、さらに特有の事情を抱えている。列島内には高校が存在しないため、各島の子どもたちは中学校を卒業すると鹿児島本土へと出て行かざるを得ない。中之島の子どもの多くは、15歳の春を迎えるに際して、初めて親元を離れて生活することになる。

そこで私は実習中のオリジナル授業において、子どもたちが地域の方々や年輩の方々とコミュニケーションがとれるものを考えた。この子どもたちは10年後、20年後に島のことについて訊かれる機会が必ずあるであろう。私は島を離れてからも郷里を誇れるように、何らかの形で協力したいと考えた。それが、「遊び」を通じて地域の方々や年輩の方々とコミュニケーションをすることであった。「遊び」であれば、子どもたちも興味を持ちやすいであろうし、「遊び」を通して中之島の今と昔が変化していることを意識させ、島の歴史や文化に思いを及ぼすことを通して、自らが思う、島の誇りを発見させたいと考えた。

1. 中之島について

(1) 中之島の自然と暮らし

周囲 31.80km, 面積 34.47 平方 km, 人口 155 人 (2006.7 末), 最高点 979m (御岳) で, 鹿児島市より南下すること 222.5km, 北緯 29 度 50 分, 東経 129 度 52 分に位置し, 人口, 面積ともにトカラ列島で最大の島である. 島の中北部にそびえるトカラ列島最高峰の御岳は, 頂上まで登山することができる.

「トカラ富士」の愛称にふさわしい, 美しい稜線の山である. 御岳の麓にある高原には, 鹿児島県天然記念物トカラ馬が放牧されている.

海岸沿いには「西区温泉」「東区温泉」の 2 つの天然温泉がある. 島のほとんどの家庭は風呂を設けず, これらの温泉を利用しており, 集落内の憩いの場所となっている (入浴料金は無料). また商店街やスーパーは無いが, 夕方の 5 時から 7 時まで営業している売店 (西区温泉近く) で, 生活に必要な品物は, ある程度は買い揃えることができる. また自動販売機は, 島内に 3 つ確認できた. 公共施設は中之島小中学校以外に, 十島村役場中之島支所, 発電所, 郵便局, 十島村歴史民俗資料館, 中之島天文台がある. 天文台は九州最大級の 60 センチ反射遠鏡を備えている. 空気が澄んでいるときには綺麗な天体が観察でき, 肉眼でも十分に天の川を見ることが出来る. 島の労働人口の多くは, 農業, 漁業, 土木工事に従事している.

私はこれら以外にも, 島民から直接, 情報を収集したいと思い, 島を 2 日間かけて一周した. 島民の話によると, 西区は先住集落であるが, 東区は明治期に奄美の人々が入植した集落ということであった. 第二次世界大戦後の一時期, 日の出集落の開拓もあって 1000 人を超える人々がこの島で生活していたが, 現在では廃墟になった建物やその跡が, かつ



図 1. 中之島の地図

出典: 十島村役場ウェブページ

<http://www1.tokara.ip/contents/profile/takara.html>



中之島小中学校日の出分校跡



セツ山海岸

での賑やかだった佇まいを想像する縁となっている。学校もその一つであり、今回訪問した中之島小中学校は、同じ島内に朝日分校、日の出分校の2つの分校を持っていた（このほか島外に中之島小中学校臥蛇島分校もあった）。日の出分校の校舎跡地では、正門の門柱と思われる石造物を確認することが出来た。その他にも島民の言によれば、島内の耕地面積は、（多かった人口に比例するように）今日のそれに比べてかなり広がったとのことであった。おそらく緑の田畑が広がる光景は、今日に比べて相当に異なる風情を醸し出していたであろう。歴史民俗資料館の前には、かつては空港建設の計画もあったようである。中之島を描いた地図の中には、島内を一周する道を描いているものがあるが、実際、少なくとも南側の道路については、車で通行することは難しい（徒歩であれば何とか可能）。また、天然記念物のトカラ馬以外に、アカヒゲという野鳥や、トカラノコギリクワガタ、野生のトカラヤギや牛なども見られた。トカラヤギの生息数は、島民の数よりも多いといわれている。また既述の御岳に加えて「七ツ山海岸」や、ヤルセ灯台のある「セリ岬」も景勝地であった。島内の海岸線は全域で崖が多く、砂浜は限られている。

（２）中之島小中学校の教育体制

在籍数は12名（小4名、中8名）。12名中、山海留学生は0名、教員子弟は1名。小一は1名。小四（2名）・六年（1名）は複式学級である。中一（1名）・二年（3名）はHRを一緒に行う。中三は4名。教職員は9名である。

島民の教育への関心は高く、学校へは協力的で授業参観、諸行事への出席率も高い。地域住民や保護者が中心となって、親子遠足や親子スポーツなどが実施されている。また、週1回のペースで職員体育があり、教職員が子どもや地域の方々と共に、学校のグラウンドや体育館を使って様々なスポーツを楽しんでいる。

教育の目的・目標を達成するために、離島の極小規模校、小・中併設校としての特有の実情や児童生徒、地域の実態を踏まえ、児童生徒や保護者、地域住民との温かい人間関係の構築を図りながら、心身ともに健康で調和のとれた児童生徒の育成に努めている。

また列島内の他の島と同様に、中之島にも高校は存在しないため、中学生は卒業後、全員が島を離れて鹿児島市等への高校に進学する。



中之島小・中学校（校庭）



小学校1年授業

2. オリジナル授業

(1) 学習指導案

第4・6学年 社会科学学習指導案



指導者： 物 應 忠
学年・学級： 第4・6学年 複式学級
場所： 中之島 小学校 第4・6学年 教室
日時： 平成18年9月14(木) 第5校時

1. 単元主題 「遊びから学ぶ、昔のものの調べ」

2. 単元設定の理由

(1) 教材観

現地校で使用している小学3・4年生の社会科学教科書の項目に、「昔のものの調べ」というテーマがある。また社会科の『学習指導要領』には、小学3・4年次に教えるべき内容の一つに「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」¹とある。同じ指導要領の小学6年次の目標には「歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする」²と書かれている。現地校の小学6年生の児童は、小学4年次に地域調べ学習を経験しているが、今回はその反復をすることで、より確かな郷土愛を醸成し、さらに自らの郷土が空間的に仕切られた離島であることを意識させながら、自らの郷土を（島国ゆえ特有の歴史を展開してきた）わが国のあり方に置き換えて考察することが、ある程度までは可能であることも伝えたかった。

授業担当者は、郷土・中之島における「今と昔」の比較が可能で、かつ子どもが関心を持ちやすい題材を色々と考えてみた。そこで思いついたのが、郷土に伝わる固有の「遊び」を再発見し、それに親しむことであった。

(2) 児童観

児童は色々な遊びを知っている。新しい遊びを自分で見つけては、繰り返して遊ぶ。そして、また新しい遊びを見つける。このように、児童は遊ぶことがとても好きであるが、しかし昔の遊びを掘り起こして遊ぶところまでの好奇心は、さすがに持ち合わせていないと思われる。加えて、昔の遊びの背景にある当時の島の暮らしについて考えを及ぼす機会も、昔の遊びをすること自体に必然性が無い以上、これまでほとんど無かったのではないだろうか。

¹ 文部省『小学校学習指導要領解説・社会編』（平成11年5月）の「第3学年及び第4学年の目標と内容」の中の「内容」の一項目。42頁。

² 同前「第6学年の目標と内容」の中の「目標」の一部。82頁。

(3) 指導観

本単元は、遊びを通して「昔のもの調べ」をすることが本旨であるが、指導にあたっては、児童たちだけで考えさせるのではなく、地域の人や年輩の方からも情報収集させ、その成果を授業で交換しあう環境をつくる。そして普段はふれることのない昔の遊びや、昔から伝わる郷土玩具が、意外と楽しいものであることを体感させる。最終的には、これら昔の事象にふれることを通して、今現在との違いに思いを至らせる。

3. 単元の目標（評価の観点）

[関心・意欲・態度]

- 普段、ふれる機会の少ない郷土玩具に親しみ、興味を持てたか。

[思考・判断]

- 「昔の遊びが、今はなぜ行われなくなったのか？」

その背景にある暮らしの変化を踏まえて、考察できたか。

[観察・資料活用 of 技能・表現]

- 地域の大人から聴いたことを、発表できたか。わかりやすく報告することと、その成果を踏まえて、授業の中で意見交換ができたか。

[知識・理解]

- 昔の遊びや郷土玩具にどのようなものが存在したか、知ることができたか。
- その時代の暮らしや社会情勢が、遊びの内容を変化させていることを理解できたか。

4. 単元の流れ

第1時では、今日では親しむ機会が少なくなった郷土玩具を用意し、私がそれらの遊び方を実演する。そして児童の普段の遊びを訊ねる。その後、私が用意した郷土玩具を実際に手にとって遊ばせる。ややもするとできる子とそうでない子に分かれるかもしれないが、指導してある程度まではできるように導き、それが意外と楽しいことに気付かせる。この日は主に、郷土玩具で自由に遊ばせることに主眼を置く。最後に宿題プリントを配布し、島で行われていた遊びや玩具について、保護者や地域の方に尋ねてくることを宿題とする。

第2時では、宿題で見つけてきた遊びについて、児童たちに自由に報告させる。ここでなぜ、今と昔の遊びが異なっているのかを考えさせる。次いで、昔の遊びと暮らしの変遷について講義をする。このとき、(兵庫県姫路市の「日本玩具博物館」で入手した日本の玩具の変遷を要約した資料を本授業用に再編集した)オリジナル資料を配布する。最後に、この資料の中から次時の授業で遊べそうな玩具や、作れそうな玩具を決める。=本時

第3時では、実際に玩具を作って遊んでみる。最後に児童に感想を表明させて終了。

5. 本時の実際

(1) 本時の目標

- 昔の遊びについて、地域の大人にヒアリングするなどして調べたことを発表させる。
- 昔の遊びと今の遊びを比較し、遊びがその時代の暮らしや社会情勢を反映したものであることを理解させる。

(2) 本時の展開

	学習活動	子どもの活動	指導上の留意点
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の復習. ・ 宿題発表. ・ 今と昔の遊びの違いを考える. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族や地域の年輩の方々から調査してきたことを、発表する. ・ 今と昔の遊びの違いを考察し、発表する. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が調べてきたことを自由に発言させて、板書する. ・ いくつか挙がってきた段階で、なぜ今と昔の遊びが違っているのかを考えさせる.
展開 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本伝統の郷土玩具の講義. プリント配布. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びや玩具に歴史があることを知る. ・ 遊びや玩具が、暮らしや社会情勢の影響を受けていることを理解する. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和初期→第二次世界大戦→高度経済成長を経て変化する遊びや玩具の変遷を、その時代の雰囲気が伝わるように話す. ・ それぞれの時代に合った遊びがあることを理解させる.
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想文記入. ・ 次時の予告. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの手で、どのような玩具がつくれるのか、そしてその玩具を使ってどのように遊んだらよいのか、真剣に考える. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が調べてきたもののの中で、実際に遊べそうな物や作れそうな物があれば、この場で決定し、次の授業で実践するにあたって具体的な指示を出す.



全校朝礼で実演



みんなで作った竹剣玉

😊
昔の島にはどんな遊びや玩具があったのか書いてみよう！！

①

②


③

④

⑤

5つ以上書いてね！！

調べた遊びについて、まとめてみよう！！



資料 1. 第 1 時の最後に配布した、宿題プリント

(2) 実践報告

第 1 時で郷土玩具にふれ、興味を持ってくれたのは良かったが、宿題が思うようにいかなかった。遊びを通じて島の郷土文化を学び、そこから郷土愛を育むというのが本来の授業目的であった。しかし、子どもたち自身から昔の遊びや暮らしのことを、地域の方や年輩の方々から調査するのは難しかったようである。そこで第 3 時の授業は、私が島を周ったときに教わった郷土玩具（竹剣玉）を作ることにした。また敬老会も役立てたかったが、台風 13 号被害の復旧作業のために延期となった。結果として私自身、実習期間中に敬老会に参加することはできなかったため、最後に課題プリントを配布して、島で誇れるものを敬老会で見つけてくるように促して終了した。結果として、自分自身の手で本単元を最後まで見届けられなかったことは、反省すべき点である。

もう一つの反省点は、今回の授業の目標の一つである「郷土愛を育む」ことがどこまでできたか、ということである。遊びや郷土玩具をよりよくイメージさせようと思うあまり、その背景となる概念的なものを十分に伝えきれなかったところがある。

事前準備として、同じ「郷土愛を育む」ことを目標とする授業のレパートリーを複数用意し、その教材研究や授業実践の大きな前提として、(教材化を念頭に) 中之島のことをもっと勉強しておく必要があった。

3. 研修全体を通して

(1) 研修内容

以下、研修内容については日誌形式で報告する。



中学 2 年授業



小・中合同体育

9 月 11 日 (月)

朝 7 時 20 分に出勤し、学校の草むしりと掃除を手伝った。全校朝礼で自己紹介と、授業で行う郷土玩具について実演した。実習初日であるが、さっそく 3 限目の 4 年・6 年の社会科の授業をさせて頂いた。まずは授業の導入として、自己紹介と兵庫県の紹介をした。この日は、昔の郷土玩具にふれ、単元の主題に興味を持ってもらうため、私が持参した玩具を中心に遊んだ。みんな夢中だった。授業の最後に宿題として、昔の島の遊びや暮らしを近所の方や年輩の方から調査するためのプリントを配布した。給食は、小学生 4 人と一緒に楽しく食べた。直接は授業をしていない小学校一年生も郷土玩具に興味津々で、昼休みに小学生全員と玩具で遊んだ。5・6 限は運動会に向けてのホームルームであった。この日は慣れていないこともあり、正直、かなり疲れた。しかし在籍する児童生徒全員と話をすることができ、彼らと仲良くなれたので、楽しかった。

9 月 12 日 (火)

7 時 20 分に出勤し、草むしりと掃除を手伝った。この日は、授業の見学とその手伝いを中心に研修した。1 限目の中 2 英語には、指導の補助員として授業に加わった。授業の主題は **will, be going to, must** の構文であった。2 限目は小 1 図工に参加し、運動会のスローガン「ふかめよう中之島の友情」を長い模造紙に書いた。3 限目は、小 4・6 社会の授業を手伝った。この授業は、私がオリジナル授業をさせて頂いている講座であるので、子どもたちがこの教科そのものに本来どの程度興味を持っているのかについて、注意して観察した。4 限目は小 1 体育で、運動会で行う小学校・中学校合同の踊りを練習した。練習して、私もこの踊りを覚えた。5 限目は、校内を見学した。6 限目は、中 2 地理の授業を参観した。授業の主題は、ヨーロッパの気候や農業、文化の特性についてであり、これらについて生徒が自由に調べたことを発表する形式であった。私も出来る範囲で指導した。放課後に職

員室で、翌日 2 限の中学道德の時間を任された。私の塾講師のアルバイト経験を活かした、中学卒業後の進路に関すること等を話すように勧められた。放課後は部活動に参加した。

9 月 13 日（水）

7 時 30 分出勤。昨日と同じように、校内の雑務を手伝った。1 限目に小 4・6 国語を少し見学した後、2 限目の授業の準備をした。2 限目は、中 3 道德の授業を使って、私の話をした。私自身の中学・高校時代のことから、塾講師のアルバイト経験を活かして高校受験についてのアドバイスをを行い、中学生が置かれている立場に真正面から向き合った。私はこれらのことについて、自らの体験に基づいた自分自身の考えを用意していたので、中学生にはそれなりに心に響く内容の授業になったのではないと思う。3・4 限目は、小・中の合同体育に参加した。3 限目は、運動会に向けての練習で、4 限目は、体力を付けさせるために 1500m 走と鉄棒の懸垂を行った。私は前日までに踊りを習得していたので、この時は、まだ完全に覚えていない子どもに教えることができた。5・6 限目は、授業の様子を見て回った。放課後、運動会の応援練習に参加し、応援歌を作った。みんなに気に入ってもらったようであった。その後、子どもや地域の方を含めた「職員体育」があり、ソフトボールをして楽しんだ。



中学道德の授業 1



中学道德の授業 2

9 月 14 日（木）

7 時 30 分に出勤。学校の掃除と草むしりをする。1 限目は、中 1・2 道德を見学した。

内容は、1993 年 8 月に鹿児島市の竜ヶ水駅で起こった、集中豪雨による水害事故についてであった。みんなで意見を交換しながら授業を進める形式であった。最後にビデオを視聴し、感想文は宿題として出された。2・3 限目は、実習授業の準備をした。4 限目は、小・中合同で、来る 9 月 18 日の敬老の日に予定されている「敬老会」に向けた出し物（手品）の練習を行った。個性ある手品が多くて面白かった。5 限目に、2 回目のオリジナル授業を行った。宿題で調べてきたものを自由に発表してもらい、板書した。なぜ昔の遊びが無くなったのかを考えてもらい、私が用意した遊びと玩具の変遷について、講義をした。6 限目は、中 3 体育に参加した。体力を付けさせる授業であった。放課後、運動会で歌う応援歌の練習を行い、余った残りの時間で、私が持参した玩具で子どもたちと遊んだ。中でも中学生は、ベーゴマに興味を持っていた。このほかにも、校庭で色々な遊びを楽しんだ。

9月15日（金）

7時30分に出勤。いつものように学校の草むしりと掃除をした。1限目は、小4・6理科を参観した。「天体」の授業の復習として、問題集を解答させていた。2限目は、中2理科の授業を見学した。主題は電流について（アンペアA、ボルトV、電気抵抗 Ω ）であった。ワットが違ふと変化するものは何であるのかを考えさせる実験を行っていた。3・4限目は、運動会の練習であった。給食の時間に、児童生徒全員の前で別れの挨拶をする予定であったが、台風のため「延滞祝い」となった。5限目は、台風に備えるための作業を手伝った。校庭にある備品や鉢植えなどを体育館や教室に入れることや、壁の補強などを行った。6限目は、運動会の飾りなどの準備に取り組んだ。放課後は、応援団の練習に加わり、声出しなどのアドバイスをした。

帰宿後、宿泊している旅館で飲み会（ここでも延滞祝い）を開いて下さった。

9月16日（土）

この日は、接岸港で防災訓練があった。島民の大半が参加していた。御岳が噴火したことを想定して、島からの脱出に向けての訓練と、正確な消火器の使い方を訓練した。私も参加して、地域の方々と一緒に訓練の準備を手伝った。一ヶ月後の10月15日に自衛隊を交えた訓練が予定されており、それに向けて訓練時間を計測していた。意外に本格的な訓練であることに驚いた。

9月17日（日）

台風が再接近し、宿舎に缶詰状態であった。特に波が凄まじく、私が逗留している宿舎のすぐ近くにある「東区温泉」の建物が崩壊してしまった。かつて徳之島に長期滞在した際に、離島の台風は経験していたが、今回のような激しい台風は経験したことが無かった。いくらか風雨が穏やかになったのを見はからって宿舎の裏にまわり、海の状態を動画で撮影した。恐ろしい一日であった。翌日の敬老会は、中止となった。

9月18日（月）

朝8時から、崩壊した東区温泉の復旧作業を手伝った。大学生時代の力仕事のアルバイト経験が、蘇ってきたような感じであった。温泉の浴槽の中には海岸からの砂が多量に入っていた。私はこの復旧作業を、午後1時ぐらいまで手伝った。その後、職員のY先生のご協力を頂いて、最高峰の御岳の頂上まで登った。最高の景色だった。帰路、Y先生と別れた後、地域の方と懇談する機会があった。5人の方に、昔の中之島の様子や遊びなどを聴くことができた。以前にも、この島は竹が多いとの情報を得ていたので、今回のオリジナル授業では、竹を使った玩具をつくることにした。この日は台風が去った直後で、星がとても綺麗だった。



御岳からの風景

9月19日（火）

7時30分に出勤し、草むしりと掃除をした。1・2限目は、授業の準備に充てた。3限目の小4・6社会は、3回目のオリジナル授業であった。用意したものは、竹、キリ、ノコギリ、ヒモ、丈であった。まず、この竹を島内のどこで伐ってきたのかをパソコン上の写真を使いながら説明した（参考までに東区温泉の復旧作業の模様や、御岳の頂上の写真も見せた）。玩具は完成品を事前に作っておいたので、それを子どもたちに見てもらい、これを使って実際にどのように遊ぶのか、その遊び方を実演した。私が手伝った部分もあるが、子どもたちはほとんど一人で竹剣玉を完成させた。

4限目は、合同体育に参加した。昼休みに校長、教頭、小4・6年担任の3人の先生方と、校門前で写真を撮った。5限目は、運動会で演奏する「聖者の行進」の練習の模様を見学した。未完成な部分はまだあるが、子どもたちはみな練習熱心であった。6限目に、中学美術の授業を見学した。内容はレタリングで、完成した文字をよく見て書いていた。放課後、校庭でみんなと応援団の練習をした後、鬼ごっこをして遊んだ。

9月20日（水）

7時30分に出勤した。日課となっていた朝の草むしりと清掃作業は、ついにこの日が最後となった。全校朝礼で別れの挨拶をした。その場で、児童生徒全員の名前を言った。そして10日間の実習期間に感謝の気持ちを伝えた。最後に、「島に居て誇れるものを沢山持ってください」と言い、「10年後、20年後に、君たちの郷里であるこの島のことについて訊かれる機会は必ずあると思います。その時に、堂々とこの中之島について誇りに思うものを、伝えられる人になってください。近所に住む年輩のおじい・おばあは、みんなが尋ねれば喜んで、この島がみんなで結束しながら頑張ってきた歴史を教えてください」

ます。」という主旨のことを言った。朝礼の後、子どもたちは授業のため教室に入り、私は校長室で、実習を振り返りながら30分ほど校長先生と話をし、学校を出た。



セリ岬



アカヒゲ

（２）研修を終えて

授業以外にも、様々なことを体験させて頂いた。教員の教員たるゆえんは授業であり、私自身、オリジナル授業に大きなエネルギーを注いで実習に臨んだが、実際に現地入りして、実習を進めていく中で最も勉強になったことは、地域社会の中における学校の存在が、私の当初の考えよりも遥かに大きいことであった。私が育った教育環境、つまり都市部における「地域と学校」の相関関係を考えると、明らかにその存在の大きさは異なっていたように思う。

また少人数校の学校運営は、少なくとも子どもたちの人間関係の上では学年間の壁を取り払う効果があり、在籍する児童生徒は学年に関係なく、とても仲良しであった。この実態にも、私は驚いていた。朝の登校から下校までの間、学年関係なく、みんな一緒になって遊んだり、相談したりしている。このような光景も、私はこれまであまり見かけたことがなかった。

トカラの子どもたちは、中学校卒業後、高校進学のため15歳の春で島を離れるが、その際に、新しく迎える同世代との集団生活に上手く馴染めるかどうか、当事者だけでなく周囲の大人も心配している。私は兵庫県内の都市部の中学生を相手に、今も学習塾で講師を続けているが、同じ中学生でありながら生活条件や就学条件が大きく異なることについて、私はとても考えさせられた。今の私の立場から言うべきことではないかもしれないが、学習塾で学んだ同世代の学生に、決して気後れすることなく、中之島で育ったことを誇りにして、しっかり自分の人生を歩んでいってほしいと心から願っている。



中之島小中学校の全児童生徒と



最終日に頂いた写真パネル

おわりに

かけがえのない体験をさせて頂いた。

島の方々の温かい眼差しをいつも感じながら、実習生活を送らせてもらったが、地域散策や地域行事等で声をかけて頂いたその一つ一つが、私にはかけがえのない有り難い体験であった。一緒になって学校を盛り上げていく「地域の力」とは、実際はこのような、日常的な相互の人間関係そのものなのかもしれないと感じた。

また、台風による復旧作業、島民の大半が参加した防災訓練、そのほか島民全体で行う各種行事などを通して、事前のイメージ以上に、学校の役

割が大きいことに驚いた。そのため授業実践等、校内の正課活動にとどめず、地域社会の活動や仕事においても、自分のできる範囲で関わらせて頂いた。

中之島で接した地域と学校との日常的な連携は、私にはとても真新しく、そして眩しく映った。東区温泉の復旧作業に際して、作業をリードしている地域の方から仕事を具体的に指示されたことは、私には嬉しい体験であった。地域の連帯意識及び所属意識は、空間的な狭さや人の絶対数が少ないことにも起因するであろうが、やはり日常的な人と人とのつながりがあってはじめて、成立するものではないだろうか。昨今の都市部における地域コミュニティの脆弱さを（私自身も当事者の一人として）反省するとき、これを打開していくためのヒントを、この度の実習を通して中之島の地域の方々、そして中之島小中学校の先生方から頂いたように思う。